



舞うがごとく 奥三河の花祭

翔ぶがごとく

上/地固めの舞
(東栄町足込地区)
右/花の舞(豊根村下黒川)

●規格
16ミリ・カラー/34分
●販売価格(消費税別)
16ミリ/210,000円



● 奥三河の生命の舞

愛知、長野、静岡の三県が果境を接するところを三・信・遠地方と俗称する。山と山がせめぎあうように重畳と重なり合い、深い峡谷が刻みこまれている地域である。

そんな山間にも、古くから人々は住みついた。天龍川をさかのぼった愛知県山岳地帯を奥三河というが、その奥三河の大入川、振草川に沿って集落が点在し、そこに住む人々の平安と繁栄を祈って「花祭」と称される神祭りが古くから伝えられてきている。

かつて十一月は霜月と呼ばれた。山国では、霜だけではなく山頂に早々と白雪が見られるような季節であった。この頃になると山川草木が衰え、木々の葉が音もなく散った。その枯葉に、古代の人々は魂が離れ去ってゆく姿を観じた。人間もまた、この季節には魂が離れて衰弱するように感じられた。それを防ぐためには、花の盛りの勢いを避らせることが必要であった。その花の復活を人々は神に祈った。そして、その祈りは土地の人が「ハナ」と呼ぶ「花祭」となっていたのである。

霜月の神祭りであるところから、これを霜月神楽というが、祭場に釜を設け、その釜の湯で清め祓いをするところから、湯立の神楽とも呼ばれる。

稚児の演じる「花の舞」、少年の舞う「三つ舞」、青年の舞う「四つ舞」、遠来の神々の来臨ともいえる仮面の舞の数々、そして、山の神が降臨してきたような「山見鬼」、「神鬼」、「朝鬼」などの荒ぶる神々の祝福の舞、さらに、釜の湯を湯たぶさでふりかける「湯ばやし」には、すがすがしい清めの祓いがこめられている。

舞の特色となっているヘンベは、力強く大地を踏みしめ、地下の悪霊を追い払う所作であるが、これは反閨(へんばい)という陰陽道の呪法のひとつで、この神楽が修験によってもたらされたことを色濃く示している。

古い神祭りの伝統を伝える「花祭」は、奥三河の人々にとって、まさに貴重な生命の舞であるといえることができるであろう。

●企画
財団法人 振興財団
●製作
株式会社 桜映画社
●監修
日本伝統芸能研究所長
高橋秀雄
●撮影協力
愛知県
豊根村教育委員会
東栄町花祭り会館
足込花祭保存会
下黒川花祭保存会

優秀映画鑑賞会推薦

高橋秀雄



●—製作意図

天龍川の上流、険しい山々が連なる奥三河。そこには、人々の平安と繁栄を願って、「花祭」が传承されている。

花祭は、遠く鎌倉・室町時代に山伏や修験者によって伝えられた七百年余の伝統をもつ祭りである。昭和51年5月に国の重要無形文化財に指定され、現在、東栄町や豊根村などを中心に、毎年11月中旬から翌年の3月上旬にかけて、17箇所で大盛に催される。また、湯立神楽とも深く係わっており、釜の湯のまわりを夜を徹して舞い踊る人々の熱気は、湯ばやしに向かって昇華していく。

映画では、長い伝統の中に生き続けてきたこの祭りを見つめ、その起源と民俗のこころを探っていく。



●—あらすじ

古来より日本人は、咲き誇る花には神が宿り、その勢いが盛んなときに花は咲き、衰えたときに散っていくと信じてきた。花の勢いの最も衰える霜月から正月にかけて、花の甦りを願って行われる奥三河の花祭を、東栄町の足込と豊根村の下黒川を訪ねた。

まず土地の地主神が祭場の花宿に迎えらる。祭りの司祭者である花太夫は、荒ぶる精霊を封じ込め、屋敷神をはじめ様々な神を招きよせる。そして、祭場に据えられた釜の湯で清め祓いをし、夜を徹した数々の舞がはじまる。

最初に、青年の中から選ばれた優れた舞手が舞う「市の舞」、二人で舞う「地固めの舞」。さらに稚児による「花の舞」と舞い続く。舞いながら、激しく体を屈伸させて大地を踏みしめ横に翔ぶ「へんべ」[反閉(へんぱい)]と呼ばれる動作は、悪霊を地下に封じ込める意味を持つ。ここにも、日本古来の山岳信仰である修験道の影響が残されている。手に持つ採り物も替えながら舞い進むにつれ、次第に人々の声援が場内を埋めつくし、舞の輪は高揚した人々を巻き込んでいく。

すでに真夜中。祭場では、少年の「三つ舞」が続いている。巫女や翁が訪れ、「山見鬼」「神鬼」などの鬼もまた、農民に良くしてくれる山の神として祝福の舞をみせる。

白々と夜の明ける頃、釜の湯を藁を束ねた湯たぶさで振りかける「湯ばやし」となる。浴びせる湯の蒸気と、無病息災・五穀豊穡を願う人々の熱気とが、またたくまに祭場いっぱいになり立ちこめる。

日本の古い神祭りの伝統を伝える、奥三河の花祭。舞うがごとく翔ぶがごとく、花祭には、大自然の眩きに耳を傾けてきた日本人の美しい心が宿っている。

【スタッフ】

製作=村山和雄
脚本・演出=大島善助
撮影=村山和雄
山屋恵司
照明=水村富男

録音=堀内戦治
ネガ編集=加納宗子
音楽=角田 敦
解説=鈴木瑞穂
現像=ソニーPCL



上/地主神を花宿へと運ぶ(下黒川)
下左/屋敷神を花宿に招く花太夫(足込)
下右/ゆったりと舞われる市の舞(足込)



左/地固めの舞(下黒川)
上/山の神として現れる山見鬼(下黒川)
下/湯ばやしに向かって舞が続く(足込)

